

製品名: APBA2BP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06991**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	44kDa

抗原情報

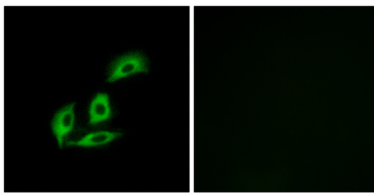
遺伝子名	NECAB3
別名	NECAB3; APBA2BP; NIP1; SYTIP2; XB51; N-terminal EF-hand calcium-binding protein 3; Amyloid beta A4 protein-binding family A member 2-binding protein; Nek2-interacting protein 1; Neuronal calcium-binding protein 3; X11L-binding protein 51
遺伝子 ID	63941.0
SwissProt ID	Q96P71
免疫原	抗血清はヒト NECAB3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

背景

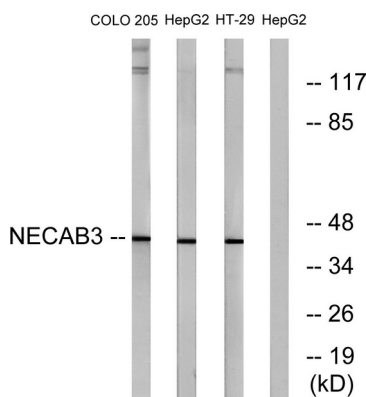
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ニューロン特異的 X11 様タンパク質 (X11L) のアミノ末端ドメインと相互作用し、非競合的機構を介して X11L とアミロイド前駆体タンパク質の会合を阻害し、X11L による β アミロイド産生抑制を解除する。このタンパク質は、X11L と共に、アミロイド前駆体タンパク質代謝および β アミロイド産生の制御系において重要な役割を果たす可能性がある。このタンパク質は、NIMA 関連発現キナーゼ 2 によってリン酸化され、ゴルジ体に局在する。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見出されている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、代替製品：追加のアイソフォームが存在すると思われる。一部のアイソフォームについては実験的確認が不十分な場合があります。機能：APBA2 と β アミロイド前駆体タンパク質 (APP) の相互作用を阻害し、 β アミロイドの形成を促進します。PTM：NEK2 によってリン酸化されます。類似性：ABM ドメインを 1 つ含みます。類似性：EF ハンドドメインを 1 つ含みます。サブユニット：APBA2 の N 末端ドメインと相互作用します。NEK2 と相互作用します。組織特異性：心臓と骨格筋で強く発現し、脳と脾臓で中程度に発現します。、

研究分野

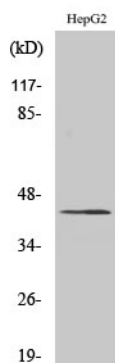
画像データ



NECAB3 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



NECAB3 抗体を用いた HepG2、COLO、HT-29 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



APBA2BP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析